

特集 開校記念日によせて



TOPICS 駒沢に移転して100年

今年2013年は、駒澤大学がここ「駒沢」の地へ移転して100年目です。

1913年1月、駒澤大学(当時、曹洞宗大学)は、麻布日ヶ窪から現在の駒沢(旧東京府荏原郡駒沢村)に移転しました。本誌では、308号(7月10日発行)、309号(10月15日発行)で、この1世紀にわたる駒澤大学、周辺地域の変遷を特集しています。



移転当時の駒澤大学

未来に繋がる
自分へ繋げる



● 開校記念日によせて	2
● 駒沢移転100年特集② 曹洞宗大学の発足と駒沢への移転	4
● 名誉教授のプロフィール	6
● 第7回学長学業奨励賞受賞者発表	12
● サークル活動報告	15
● 活躍する卒業生 バンクーバーパラリンピックメダリスト 馬島誠さん	16

開校記念日によせて



信誠敬愛の人格陶冶

総長 池田 魯参

本学の歴史は今から421年前の学林の創設まで遡ります。その後の290年余の星霜を経、駒込の吉祥寺にあった「旃檀林」の学舎（当時「曹洞宗専門学本校」）は、麻布北日ヶ窪（現在六本木ヒルズ辺）の地に移転し、「曹洞宗大学林専門学本校」として開学したのが、明治15年（1882）10月15日のことでした。この日を開校記念日と定め、本年は131年目を迎えます。また、大正2年（1913）に現在の駒沢の地に移転してから、本年は100周年となります。

現在では、仏教、文、経済、法、経営、医療健康科、グローバル・メディア・スタディーズの7学部に、総合教育研究部、法科大学院を合わせ、7研究科からなる大学院を擁する総合大学と成った本学ですが、仏教の教えを建学の理念とし、とりわけ曹洞宗の禅の教えを頂き、一筋に本学の教育研究の充実を期して尽力された先人たちの功業に対し、私たち駒澤人は敬慕の念を奉げないではられません。

いうまでもなく、本学の校歌は北原白秋作詞、山田耕筰作曲になる、誉らしくも美しい校歌です。3番に、信誠敬愛の歌詞があります。この4語は日常の言動を省みる品格を表します。信は、信義を重んじ、自らの信念にもとづく責任ある言動を促します。誠は、誠心誠意を尽くして誠実に物事に当るよう求めます。敬は、諸仏、諸祖師（先人）を敬慕、敬仰し尊び敬うことを示します。愛は、いたわりいつくしむ慈愛の心、思い遣りいとおしむ親愛の情の大事に他なりません。

本学の学問の究極の姿は、こういう自立自尊の人格の陶冶にこそ求めるべきだと考えます。開校記念日に、改めて学問の意義を考えてみましょう。



駒澤大学の伝統と江戸・東京

—開校130周年、駒沢移転100年—

学長 廣瀬 良弘

今日、日本文化の代表的なもの多くは、中世から江戸時代初期に育まれたものです。能・狂言から歌舞伎、茶道、華道、枯山水の庭、水墨画、書院造り・床の間の文化などで、これらは禅の影響を強く受けました。能の世阿弥も曹洞禅僧の門弟です。一方、禅僧たちは在地の武士や長者（武士的商人）ばかりでなく、農民や鍛冶屋・紺屋・漁師などの民衆にも受容され、乱世の日本各地に展開いたしました。

東京は2度目のオリンピック誘致に成功しましたが、その江戸・東京の祖とされる太田道灌は江戸城を造り、その傍に本学の前身の前身である曹洞宗吉祥寺を建てます。今から550年前のことです。本学の傍にオリンピック公園ができたのもその縁でしょうか。その後、徳川家康が江戸に入城し、その拡張工事のために、吉祥寺は水道橋の外に移転します。文禄元年（1592）、その吉祥寺の境内に旃檀林（当初は学林）が建てられます。420年前のことです。明暦3年（1667）、振り袖火事により、吉祥寺（旃檀林）は駒込に移転し、幕府の昌平黌と学力を競ったといえます。

明治6年（1875）、学寮の伝統を受け継いで、愛宕下の青松寺に曹洞宗専門（学）本校が成立しますが、一年後に、手狭であったために駒込の吉祥寺旃檀林に移ります。

そして、麻布の北日ヶ窪の地（現在の六本木ヒルズ・テレビ朝日のあたり）に明治15年（1882）、曹洞宗大学林専門（学）本校が開校されました。昨年、開校130周年を迎えました。そして、大正2年（1913）、駒沢村に移転して、100周年となります。駒澤大学は禅の精神・日本の文化、禅僧や学林の伝統を継承し、発展・飛躍してきたのです。

一松語

芸術の秋、多くの博物館・美術館では特別展が催される。この時期の温湿度は美術品にとって最適であり、収蔵庫の外に出す好機なので、優品が展示される特別展が多くなる◆曝涼（ぼくりょう）ということばがある。曝涼とは、通常あまり空気の通らない場所に保管されている美術品に新鮮な空気をあてる、いわば虫干しのことである。これにより美術品の保存状態が更によくなるという◆毎年秋に奈良国立博物館で開催される

「正倉院展」も実は曝涼の一環として行われる。宝物は聖武天皇と光明皇后の遺愛品、これを年に一度嚴重な封印を解いて収蔵庫から取り出す。この曝涼は天平時代から脈々と続けられている◆正倉院は校倉（あざくら）として知られ、この造りが宝物を保存してきたと、かつて学校で教えてもらったが、近年の調査研究で最も大きな役割を果たしたのが、宝物を納めた櫃（ひつ）であることが判明した。櫃内の温湿度が一年ほぼ一定であるという。また校倉は檜材で造られるが、宝物に直接ふれる櫃はあ

まり樹液を出さない杉材で造られている。このようにして宝物は保管に細心の注意がはられ一千年の時を経て現代に伝わっている◆聖武天皇といえば、東大寺の大仏を造ったことで有名であるが、大仏造立の詔（みことり）を発したのが天平15年10月15日であった。その約一千百年後の10月15日に駒澤大学が開校している。この季節の清々しい紺碧の空は、大きなプロジェクトを始動するのに相応しい。開校記念日に往時の人々の想いを振り返り、その情熱を心にとめておきたい。

学生の服装から見る駒澤大学



1904(明治37)年 大学の前身である曹洞宗大学林生たち



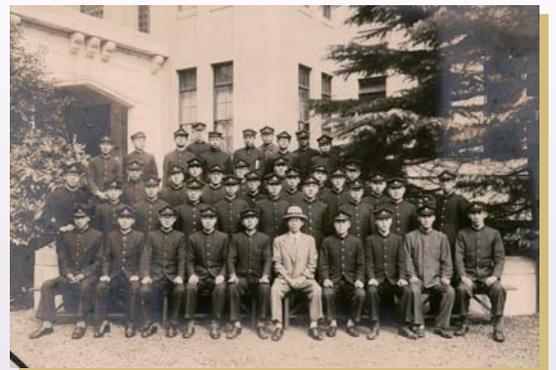
1919(大正8)年 図書館閲覧室。着物と学ランが混在している



制帽



1929(昭和4)年 富士裾野で行われた軍事教練。
学生も銃を持たされた(『駒澤大学百年史』上巻より)



1944(昭和19)年頃 昭和20年に卒業した学生たちの集合写真



1970年代前半(昭和40年代後半)頃
フォークソングが流行し、公園や路上で弾き語りをする学生が多かった



1988(昭和63)年 当時あった道憲寮。寮ごとに学ランの襟章が異なっていた



1980年代から90年代(昭和後期～平成初期)
サークルで揃えていたスタジアムジャンパー(通称スタジャン)



1990年代(平成初期)
男女ともに流行ったプロデューサー巻き



2005(平成17)年
ファッションが多様化して、自分なりのオシャレを楽しむ学生が増えた

曹洞宗大学の発足と駒沢への移転

文学部歴史学科 准教授 小泉雅弘

明治8年(1875)、青松寺(現港区愛宕)の学寮を借用して「曹洞宗専門学本校」が開校しました。江戸時代の学寮とは、僧侶養成の学問所です。「曹洞宗専門学本校」も僧侶の養成を目的としましたが、明治時代になると、曹洞宗の僧侶養成機関は近代的な学校制度の中に位置づけられていきます。「曹洞宗専門学本校」の学生定員は200人で、寄宿生活を送りながら、仏教・禅学・国学などを学んでいました。

その後、吉祥寺(現文京区本駒込)経営の旃檀林に学校を移転しましたが、入学希望者が増加したため、明治15年(1882)には麻布区北日ヶ窪町(現港区六本木)の土地を購入し、同年10月15日、校名を「曹洞宗大学林専門本校」(のち「曹洞宗大学林専門学本校」)と改称して、開校式を挙行了しました。今から131年前のことです。この10月15日を本校の開校記念日と決めました。

明治32年に私立学校令が施行されると、「曹洞宗大学林」と校名を変更しました。そして、日露戦争中の同38年には「曹

洞宗大学」となり、教育組織が整備されていきます。それにともない、学生数の増加、施設や校地の拡充が課題となりました。同41年には、煉瓦造り2階建ての図書館が開館しました。図書館は、大学としての「知性」と「見識」を象徴する建物です。「曹洞宗大学」が養鶏場を営む郷力三郎の土地を購入し、駒沢の地へ移転したのは100年前の大正2年(1913)。そして、大学令にもとづき大正14年には「駒澤大学」となりました。

現在の大学構内には、禅研究館前に立つ二つの石碑のように、日ヶ窪時代の文化的遺産がいくつか移され現存しています。ぜひ、説明板を読んでみてください。なお、大学会館の前にある「駒澤大学」と刻まれた石柱は、「曹洞宗大学」の文字を削って追刻したものです。

駒沢の地に移転してからの本学は、有為の人材を社会へと送り出しながら、商店街の形成、オリンピック公園の整備など、地域社会の発展とともに歩むことになるのです。



明治22年(1889)以降
曹洞宗大学林全図



明治37年(1904)
「曹洞宗大学林」の学生たち



大正2年(1913)
駒沢移転当時の大講堂

写真はすべて『駒澤大学百二十年一過去からいま そして未来へ』より

年	行事
1592	文禄元 江戸駿河台吉祥寺に「学林」設立。
1657	明暦3 吉祥寺、駒込に移転。
1875	明治8 中国の名僧・陳道栄が「旃檀林」と命名。「曹洞宗専門学本校」を青松寺獅子庵学寮内に開校。
1876	明治9 「曹洞宗専門学本校」を駒込吉祥寺に移して「旃檀林」と合併。
1882	明治15 麻布北日ヶ窪に校舎を新築して移転。10月15日に校名を「曹洞宗大学林専門学本校」とする。
1904	明治37 専門学校令による大学として認可。
1905	明治38 校名を「曹洞宗大学」と改称。
1913	大正2 大学を現在の駒沢(旧東京府荏原郡駒澤村)の地に移転。
1925	大正14 大学令による大学として認可。校名を「駒澤大学」と改称。
1949	昭和24 学制改革により新制大学に移行。仏教学部、文学部、商経学部の3学部9学科で再スタート。
1950	昭和25 駒澤短期大学仏教科第2部を開設。
1951	昭和26 学校法人令による学校法人駒澤大学に組織変更。
1952	昭和27 商経学部に第2部を増設。大学院人文科学研究科を開設。
1962	昭和37 駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。
1964	昭和39 法学部を開設。
1965	昭和40 商経学部第1部・第2部を経済学部第1部・第2部に名称変更し、経済学科・商学科を増設。
1966	昭和41 文学部に地理学科・歴史学科を増設。
1967	昭和42 駒澤短期大学に放射線科を増設。
1969	昭和44 経営学部を開設。
1971	昭和46 法学部と経営学部に第2部を開設。
1972	昭和47 法学部に政治学科を増設。
1982	昭和57 駒澤大学開校100周年を迎える。「学林」設立以来400年を迎える。
1998	平成10 文学部に心理学科を増設。
2000	平成12 経済学部、法学部で昼夜開講制実施。
2002	平成14 駒澤大学開校20周年を迎える。経営学部で昼夜開講制実施。
2003	平成15 医療健康科学部診療放射線技術科学科を開設。
2004	平成16 大学院法養成研究科(法科大学院)を開設。
2006	平成18 グローバル・メディア・スタディーズ学部
2007	平成19 経済学部で現代応用経済学科を増設。
2008	平成20 大学院に医療健康科学研究科を開設。経営学部に市場戦略学科を増設。
2012	平成24 駒澤大学開校130周年を迎える。
2013	平成25 大学院にグローバル・メディア研究科を開設。

駒澤大学のあゆみ

駒沢ふれあい広場夏まつり

ちょうど10年前の駒沢移転90年の平成15年7月27日（日）に、記念すべき第1回駒沢ふれあい広場夏まつりが開催されました。この夏まつりは、大学がふれあいの広場となるよう「大学と地域の交流」と題し、地域の商店街・町内会・小学校PTA・現役大学生、そして同窓生が主体となり立ち上げられました。11回を数えた今年は、駒澤大学の開校130周年・駒沢移転100年という節目を記念する開催となりました。

初回の来場者数は約4000人、今年は8080人と地域でも恒例行事となり、来場者は倍増しました。出店は商店街・町会・学生によって運営され、かぶとむしやヨーヨーといったお子さま向けから、ビール・焼き鳥などの大人向けまで、27店もの参加をいただいています。

す。

毎回の楽しみは盆踊り会場での「浴衣コンテスト」。協賛企業から賞品をご提供いただき、小さいお子さまから大人、ペットまでエントリーがあります。第2ステージは、チアリーディングあり、現役学生によるダンスショーあり、お笑いありで好評を博しました。来場の方からは、「来年も来ます」、「これだけの規模の人を集められる場所は、大学以外に無い」、「安心でとっても楽しめた!」等様々な感想をいただきました。今後も「駒澤大学と駒沢地域の結びつき」の一助となれば幸いです。

(同窓会東京都支部事務局)



開校130周年・駒沢移転100年記念事業

駒澤大学は、昨年2012年に開校130周年、今年2013年は駒沢に移転し100年を迎え、様々な周年事業に取り組みました。

連携強化・地域貢献

- 第130回開校記念日における記念式典の開催
- 学生食堂全面リニューアル
(同窓会・教育後援会の支援により完了)
- 記念ホームカミングデー（同窓生の集い）の開催
- ふれあい広場（盆踊り）の後援
- ふれあい寄席（駒沢落語会）の後援
- 記念特別公開講演・特別公開講座の開催
(春・秋の公開講座にて)
- オータムフェスティバル（大学祭）



第130回開校記念日記念式典



記念はがき・切手



学生食堂全面リニューアル

伝統の確認・基盤強化

- 記念シンボルマークの作成
- 記念絵はがき・シンボルマークデザイン切手の作成
- 駒澤大学開校130周年記念棟
建設基金募金活動の本格開始
- 学生主催によるフォトデザインアート・
駒沢移転100年記念写真展



ふれあい寄席

名誉教授のプロフィール

名誉教授の称号は、教育、学術向上、特に功労のあった先生に授与されます。



仏教学部
片山 一良先生

片山先生は、本学大学院修士課程、大谷大学大学院博士課程で学ばれ、1975年に本学に奉職されて以来、原始仏教研究の第一人者として教育と研究に尽力された。先生は研究書以外に、膨大なパ
ーリ仏典の個人訳(大蔵出版、既刊14冊)という世界に前例のない学問的偉業を遂行中であり、その不滅の業績を生み出す御精進の姿には、ただ敬服する以外にない。仏陀のごとき温容と静謐を兼ね備えた片山先生には、今後も本学の仏教学の発展を導いて頂きたい。(仏教学部教授 松本 史朗)



経済学部
浅野 克己先生

浅野先生は1973年本学大学院博士課程修了と同時に助手として奉職され、今春退職されるまでの40年間本学の教育と研究に尽力されました。その間、経済学科主任、経済学研究科委員長の要職を歴任されました。ご専門はマクロ経済学で、日本経済政策学会では役員として長く同学会の発展に貢献されました。浅野先生の趣味は魚釣りで、時には10キロもあるカンパチやヒラマサを釣り上げる知る人ぞ知るプロ級の腕前の釣り師です。(経済学部教授 谷敷 正光)



経済学部
阿部 弘先生

阿部先生は、東京都立大学(現・首都大学東京)大学院博士課程を終えられ講師として本学に赴任された。以来、40余年にわたり研究と教育に尽力されてきた。その成果『労働と所有』に著された深い思想は、熱意ある教育を通して、学生・大学院生に広く還元されている。経済学部長の要職を務められ、教職員組合の創立と発展にも尽力されたことは私たちの記憶に残る。今また、阿部先生は、国家論研究の道に歩み出しておられる。(経済学部教授 大石 雄爾)



法学部
小堀 訓男先生

小堀先生は法政大学大学院のご出身で、政治学科が創設された1972年、国際政治学担当教員として本学に奉職され、以来マスコミ研究所所長、法学部長などを歴任し本学の発展に貢献されました。『双方向的な授業』に重点を置いた先生のゼミは希望者が多く、熱心な学生が集まり常に活気に満ちていました。『国際事象を分析し、国家の行動基準の原則』を一貫して研究する傍ら、現在は苫小牧駒澤大学学長としてもご尽力なさっておられます。(法学部教授 浦田 早苗)



経営学部
石名坂 邦昭先生

先日も「石名坂先生が退職されて、寂しくなりましたねえ」と事務職員の方から言われた。先生は、41年もの長きにわたり、本学に奉職されている。その間、経営学部長、学生部長、総合情報センター所長を歴任され、本学への貢献は、計り知れないものがある。また、リスク・マネジメントに関する多数の著書を刊行され、保険学会の理事を始めとして、非常に精力的に活動されていた。そんな後ろ姿をみられなくなったことは、後輩として、寂しい限りである。(経営学部教授 高木 克己)



経営学部
山田 勝先生

山田先生は、1974年に本学に着任され、その後39年に渡り「商業史」の分野で研究・教育に多大な貢献をなされました。1990年から学生部長(評議員)、92年から教務部長(評議員)と全学的役職を歴任され、学部においては95年から経営学科主任を2年、また、97年からは経営学部長(理事・評議員)を1期2年間務められました。重責を担いながらの適切なお判断、それを実行する決断力、齒に衣着せぬ明確なご発言は、素晴らしいの一言に尽きます。今後ご指導をお願い致します。(経営学部教授 片桐 伸夫)



経営学部
宮城 徹先生

宮城徹先生は、1977年以来36年の長きにわたり本学経営学部に奉職され、ドイツ・アメリカ経営学の理論研究と教育に多大な貢献をなされました。1983年には母校の早稲田大学より商学博士の学位を授与され、学究面で際立つ先生でした。また、在任中2期4年間学部長を務められた際には、学内に山積する数々の難題に真摯に取り組まれ、行政面からも本学の発展に尽力されました。これからも、先生のご活躍に期待しております。(経営学部教授 高井 徹雄)



医療健康科学部
山本 裕右先生

山本先生は立教大学大学院で理学博士の学位を取得後、昭和58年に短期大学放射線科に赴任されました。ご専門は放射化学・無機分光化学ですが、研究・教育のみならず、短期大学専攻科放射線技術科学専攻や駒澤大学医療健康科学部の開設にご尽力され、2期にわたって医療健康科学部長を務められるなど、本学の発展に尽くされました。温厚なお人柄で、学生・教職員からの信頼も厚く、まさに駒澤大学が誇れる先生のお一人です。(医療健康科学部教授 原田 和正)



グローバル・メディア・スタディーズ学部
町田 尚子先生

町田先生は、1972年に本学外国語部講師に就任されて以来、退職される本年3月まで41年にわたり、本学に奉職されました。その間、外国語部英語主任(1991年～1993年)を務められる等、本学の英語教育に貢献されました。2006年にGMS学部が設立されると同学部に移籍され、同学部の英語教育のために尽力されました。気さくなお人柄の町田先生を慕い、多くの学生たちが研究室を訪れていたのを記憶しております。(GMS学部講師 杉森 建太郎)



総合教育研究部
坂口 博規先生

坂口先生は本学のご出身で、昭和47年に文学部国文学科助手に就かれた後、同55年から岩見沢駒澤短期大学、平成元年から駒澤短期大学国文科、同18年から総合教育研究部日本文化部門に在職されました。国文科や日本文化部門で主任を務められたほか、仏教文学研究所の所長や、落語くらぶをはじめとする多くの学生団体の部長も務められ、慕われていらっしゃいました。歌聖西行の研究でも有名で、中世文学会や和歌文学会などでも活躍されました。(総合教育研究部教授 蘭部 幹生)



エリトリア大使が本学を訪問

7月13日、駐日エリトリア大使が本学を訪れ、第131回地理学サロンで講演を行った。この講演には、廣瀬学長と久保田副学長も出席された。

エリトリアは、1993年にエチオピアから独立したアフリカ大陸で最も新しい独立国である。しかしその歴史は古い。古代には内陸の高原を中心とするアクスム王国が栄え、紅海を経由してローマやインドとも交易していた。標高2300mの首都アスマラにはイタリア植民地時代に作られた美しい建築が立ち並ぶ。九州と四国を合わせたくらいの国土に、紅海沿岸の熱帯砂漠気候から高原の常春気候まで多様な自然をも



つ。言語も宗教もすこぶる多様であるが、今、国民は一部の人や地域に偏り過ぎないように注意しながら国造りに自助努力を重ねている。学長と同世代の大使は穏やかな口調で力強く語った。

この講演のきっかけは、6月に横浜で開かれたアフリカ開発会議の際に、地理学サロンのメンバーが今までにな

いエリトリアの地図のパネルを作って、エリトリア・ブースを引き立てたことである。同大使館の吉田美穂さん（東京都立大学地理学科卒）が見事な通訳として、大使と参加者を取り結んでくれた。

（名誉教授 中村和郎）



司法試験合格者発表

難関の司法試験4人合格

9月10日、2013年司法試験の合格発表があり、本法科大学院から4人（予備試験合格者を含む）が合格しました。このうち2人が本年3月修了者でした。合格された皆さまには、教職員一同、心よりお祝いを申し上げます。また、ご支援を賜っております、第一東京弁護士会、駒澤大学法科大学院法曹会ほか関係者の皆さまに、厚くお礼を申し上げます。本法科大学院は、引き続き、自己改革に努め、全力を挙げて、在学生・修了生を支援いたします。

（法科大学院教授 青野 博之）



在外研究 COLUMN

ふうふう 学食風々録(カナダ編)

法学部教授

清滝 仁志



大学を訪ねた卒業生がまず行くのが学食であろう。図書館や教場を懐かしいという感心な者は見たことがない。パリッとしたスーツ姿でパオに行くのである。

私も2年間のカナダ・トロント大学生活で懐かしいのは学食である。もっともこの大学は大規模な割に食堂が貧弱で、チェーン店が数軒入っている小さなフードコートばかり。パオにあたるのがホットドックの路上屋台で、当大学院卒の日本の先生などカナダに来ると家族でこの屋台に行くとか。子どもに同情する。

私の行きつけはハートハウスという学生会館の地下にあるカフェテリアである。インド風の鶏や羊の肉に米かポテト、そして野菜という組み合わせのランチをよく食べた。800円くらい。カナダの学食は高く、弁当持参の学生が多い。このカフェテリアは夜にはバーとなり、ロンドン五輪や米大統領選の時、大スクリーンを設置していた。

ハートハウスは1919年建造の、観光ガイドブックにも載っているビクトリア風の建物である。以前は男性専用で、カフェテリア以外にも本格レストラン、談話室、大講堂など盛りだくさんで神田の学士会館のような感じ。コンサートや講演会もよく開かれていた。ただ、理髪店はガリガリ君のように切られ、一度で懲りた。この建物のお気に入りには図書室である。映画で出てくる貴族の館の書齋にそっくり。ふかふかの絨毯に革張りのソファがあり、雪景色を見ながら本を読むと、自分が偉くなった気がした。読書の合間に地下にあるジムのプールでよく泳いだ。プールは広く深く、第二次大戦中は練兵施設に転用されたらしい。

外国の大学の話をするとうらやましがられるが、カナダで駒澤大学のよさがよくわかった。教場移動に数百メートルも零下20度の学内を歩かなくてすむし、学食は安くて種類が多く、PCは結構あり、教場の椅子は座りやすい、学生が教授と個人的つきあいができる…などなど。4年間の大学生活で駒澤のよいところを見つけれられてはいかがか？



被災地の子どもたちとともに ～僕らの夏休みProject～

文学部 社会学科2年 三浦早織

私は今年の1月から、「僕らの夏休みProject」という首都圏の学生を中心に集まった東日本震災復興のための団体に参加しています。「ボランティアを流行で終わらせない！」という志を持って活動している大学生がいることを知り、自分にもまだできることがあるのでは？と思い参加を決めました。震災によって傷ついた子どもたちに笑顔になってもらうため、現地へ行って子どもたちと長期的な交流を目指しています。

現地にはまだ、仮設住宅に住む人たちが、小さな仮設グラウンドで遊ぶ子どもたちの姿がありました。そんな中



子どもたちは“被災した子どもたち”とは思えないほどとても元気で、わたしたち学生の方がたくさん元気をもらいました。お別れの日

にはわざわざ見送りに来て「また来てね！約束だよ！」と言ってくれたり、子どもたちだけでなく地域の方々にも「来てくれて本当にありがとう」と嬉しいお言葉をたくさんいただきました。



そんな言葉を聞くと、私は少しでもこの地域の人たちの支えになることができただけかと思いき、本当に来てよかったです。東京に戻ってきてからも子どもたちとは手紙をやりとりする関係です。子どもたちだけでなく、地域の方々、この活動を支えてくださっている方々、そして同じ学生のメンバーなど、私はこの活動を通して、人との“つながり”を真正面から純粋に感じることができました。これからもこのつながりをずっと大切にしたいです。

『ビジネスマッチング交流会 '13に参加して』

経済学部商学科 3年 杉村 あかね

今回、私たちは「就業力講座」の授業の一環として「ビジネスマッチング交流会'13」に参加しました。この授業は、学生が就職活動や職業選択を行う際のミスマッチを防ぐこと、また社会人基礎力を養うことを主な目的として、私が1年次の時から開講されています。3年次となって就活が間近となった現在では授業名も「就業力応用」となり、経済学部では3つのクラス（浅田先生・中済先生・長山先生）に分かれ、それぞれグループ討議を中心に自己分析や



業界・企業研究の方法を学んでいます。

この授業の一環として参加した「ビジネスマッチング交流会」は、昭和信用金庫が地域の中小企業の方々の情報交流・商談の場を提供するために開催されているものです。事前に、経済学部3クラスの学生はアポをとって交流会出展企業18社に直接訪問し、経営者の方にヒアリング調査を班別に行いました。そして、企業の「人事部」の立場になったつもりで、調査企業をPRするプレゼンを授業内に実施しました。授業内の「予選」にあたるプレゼン大会で勝ち上がった6つのグループが、「決勝」の舞台となるこの「ビジネスマッチング交流会」の特設ステージに上がったのです。

今回、経営者の方から様々なお話を聞かせてもらい、働くことのイメージが具体的に見えるようになりました。

◎ビジネスマッチング交流会とは…

企業の成長戦略の実現を支援するもの。各企業からの情報を他社に発信、交流をもつことでビジネスチャンスの拡大等を実現している。



また、大企業にも負けない中小企業の魅力にも気づくことができました。「決勝」の舞台では、数多くの社会人の前で発表し、中小企業診断士や経営者の方にプレゼンを講評してもらうといった貴重な経験ができました。参加する中で、プレゼンの方法やビジネスマナーなども学ぶことができたと思います。ここで経験し、学んだことを今後の就職活動に活かしていければと思います。

9月学位記授与式を挙

9月21日（土）午前10時より中央講堂において9月学位記授与式が挙



法科大学院9月入学式を挙

9月21日（土）午後1時より、中央講堂において日本初となる法科大学院9月入学者を迎え、入学式が挙



平成25年度科学研究費助成事業(科研費)に50件採択されました。

科学研究費助成事業(科研費)は、人文・社会科学から自然科学までのすべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」を対象とした「競争的研究資金」です。文部科学省または独立行政法人日本学術振興会が審査し、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対し助成が行われています。

本学では新規・継続あわせて50件が採択されました。

平成25年度 科学研究費助成事業(科研費)採択者 ※GMS学部＝グローバル・メディア・スタディーズ学部

研究種目	継続/新規	所属	職名	氏名	研究課題
基盤研究(B)	継続	仏教学部	教授	石井公成	古代東アジア諸国の仏教系変格漢文に関する基礎的研究
	継続	文学部	教授	土谷敏治	超高齢社会に向けた大都市圏縁辺地域のモビリティ満足度に関する地理学的研究
	継続	法学部	教授	北野かほる	紛争解決制度化の比較史—前近代における「裁判」と「裁判外」—
	継続	GMS学部	教授	白水繁彦	多文化社会の排除と包摂の論理：ハワイにおける文化創生をめぐる民族間交渉と戦略
	継続	総合教育研究部	教授	伊藤茂樹	少年院における更生的風土の形成と展開に関する教育学的研究
基盤研究(C)	継続	仏教学部	教授	金沢 篤	近代日本に於けるインド学仏教学の成立と展開—その書誌学的・文献学的研究—
	継続	文学部	教授	近衛典子	日本近世期における中国白話受容の研究——「陰陽録」を中心に——
	継続	文学部	教授	酒井清治	東日本における初期仏教寺院導入期の考古学的研究
	継続	文学部	教授	櫻井陽子	覚一本「平家物語」の遊行と伝播・受容についての基礎的研究
	継続	文学部	教授	佐々木真	ルイ14世の戦争指導—フランス絶対王政論の再検討
	継続	文学部	教授	須山 聡	「まとまり」と「つながり」の観点からみた島嶼性に関する地理学的研究
	継続	文学部	教授	土井光祐	データベース構築に基づく明恵関係問書類の記述的研究
	継続	文学部	教授	李 妍焱	中国の市民社会に良き影響を与えるために：仕組み作りと意識変革のための実践的研究
	継続	経済学部	教授	渡邊恵一	戦前期日本の鉄道事業における「公共的性格」の再検討
	継続	経済学部	准教授	鈴木伸枝	離脱可能な組織を通じた公共財供給
	継続	経済学部	准教授	矢野浩一	ゼロ金利制約下の大規模ショックによる経済変動と政策対応の計量分析
	継続	法学部	教授	内海麻利	都市マネジメント主体の変化と実態：フランスの住民参加手続・公定化手続に着目して
	継続	総合教育研究部	教授	久保陽一	ヘーゲル論理学の発展史および分析哲学的研究
	継続	総合教育研究部	教授	西村祐子	移民流入と伝統的低位職の地位変更に関する考察：比較研究の視点から
	継続	総合教育研究部	准教授	上田倫史	L2学習者の語彙理解の深度を測定する包括的な語彙テストと学習支援システムの構築
	継続	総合教育研究部	准教授	小川順敬	沖縄久米島の家系資料群の研究
	継続	総合教育研究部	准教授	小沢 誠	結び目の位置と曲面
	新規	文学部	教授	有光興記	コンパッション・セラピーによる認知行動変容の比較文化研究
	新規	文学部	准教授	大城道則	エジプト王バクエンレエフのギリシア・ローマ世界への伝播過程に関する研究
	新規	文学部	講師	深澤弘樹	ローカルニュースの現状と役割に関する研究：内容分析と送り手調査から
新規	法学部	教授	原田啓一郎	地域における統合的ケア体制の構築に係る基礎研究—地域包括ケアを創る在宅医療の検討	
新規	法学部	教授	村井良太	民主政治下での長期政権のメカニズムと政策形成—補田資料を用いた佐藤政権の歴史分析	
新規	法学部	准教授	山崎 望	ポスト代表制における民主主義の諸問題—代表制・熟議システム、直接民主主義—	
新規	経営学部	教授	小本恵照	知識ベース理論と取引費用経済学を用いたフランチャイズの利用理由に関する研究	
新規	経営学部	准教授	菅野佐織	ブランド・リレーションシップの国際比較に関する研究	
挑戦的萌芽研究	新規	文学部	教授	片岡栄美	信頼社会の形成に関する学際的研究
	新規	医療健康科学部	教授	森岡基	「仮想データ」を用いたMRI撮像の高速化
	新規	GMS学部	准教授	高 媛	戦争・観光・デザイン—戦前期満洲における「観光デザイン」の歴史的展開
若手研究(B)	継続	文学部	教授	唐澤一友	韻文および散文の「メロロギウム」：曆学教育との関連から
	継続	文学部	教授	田中 靖	航空機レーザ計測データを用いたプロセスベース型地形シミュレーションモデルの構築
	継続	文学部	准教授	荒井浩道	ピアサポート機能に注目した認知症家族会の運営マニュアルの開発と評価に関する研究
	継続	経済学部	准教授	北口りえ	未実現利益への課税がもたらす課税所得概念の変容
	継続	経済学部	准教授	松本典子	日本における労働統合型社会的企業モデル構築のための国際比較研究
	継続	経営学部	准教授	中野香織	「符号化変動性仮説」に基づく複数メディアによる相乗効果の検討
	継続	GMS学部	准教授	吉田尚史	マルチメディアデータベースを対象とした即時分析及びメタデータ自動抽出
	継続	総合教育研究部	准教授	勅使河原三保子	自分の発音に自信と誇りを持って話せる日本人英語学習者の育成に向けて
	新規	仏教学部	講師	藤井 淳	三教交渉文献のテキストデータ集成と訳注
	新規	経済学部	准教授	浅田進史	19・20世紀華北におけるドイツ帝国主義と鉄道事業—グローバル化の視点から
研究活動スタート支援	新規	法学部	講師	大西 楠・テア	移民政策と家族生活の保護—グローバル化時代の日独移民法制—
	新規	医療健康科学部	講師	岡田朋子	温度応答性を付与した癌細胞造影剤の新規構造モジュールの構築
	継続	文学部	講師	高田良太	中世後期クレタにおけるヴェネツィア人とギリシア人の「共生」の構築過程
特別研究員奨励費	継続	総合教育研究部	講師	三木 望	パラレルコーパスによる日本人英語学習者のライティングの分析
	継続			岸本泰緒子	銅鏡の流通と拡散—戦国秦漢期を中心に—
	継続			柳 幹康	「宗鏡録」の研究—唐から宋への仏教思想の展開—
				角道亮介	殷周時代における礼制の成立とその展開に関する研究

科学研究費による学術研究

経済学部准教授 矢野 浩一

「ゼロ金利制約下の大規模ショックによる経済変動と政策対応の計量分析」というテーマで平成24年度から平成26年度まで科学研究費補助金(基盤研究C)の交付を受けている(明治大学・飯田泰之先生との共同研究)。

「マクロ経済学」(国レベルでの経済動向を研究する経済学の一分野)では、貨幣発行を担当する中央銀行は、その貨幣発行を通じて短期名目金利を上下させて景気変動をある程度制御できると考えられている。

たとえば日本では日本銀行(日銀)がその中央銀行である。しかし、1999年以降今日(原稿執筆時点)に至るまで、日本では短期名目金利がほぼゼロになってしまう「ゼロ金利制約」という問題がずっと続いている。この場合、日銀は通常的手法で景気刺激を行えなくなる。

そこで、「ゼロ金利制約に抵触しても可能な政策は何か」が問題となる。飯田先生と私が研究しているのはまさにそのテーマである。「動学的確率的一般均衡理論」という最新のマクロ経済学や「ベイズ統計学」といった最新の統計手法を用いることでこの問題を分析している。同時に昭和恐慌時に実行された「高橋財政」や大恐慌時の「ニューディール政策」の調査も行っている。

また、昨年末の政権交代以後、飯田先生と筆者(矢野)が属する「リフレ派」という研究グループの考え方がアベノミクスや異次元緩和に大幅に取り入れられ、経済状況が好転するなどの成果を上げている。まだ経済データが揃っていないため、十分に研究できる環境が整っていないが、今後はそれらの効果についても研究を進めていく予定である。

仏教行事について

太祖降誕会

仏教学部教授 晴山 俊英

成道会

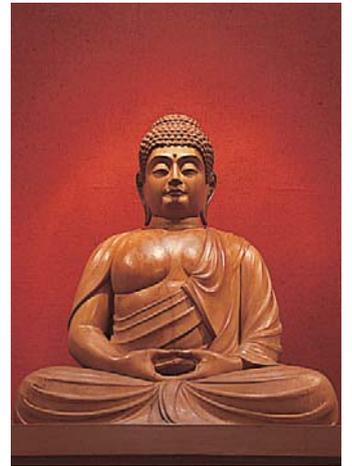
仏教学部教授 木村 誠司

11月21日は、太祖降誕会すなわち瑩山禪師の誕生日ということになります。その瑩山禪師は『洞谷記』『当山尽未来際置文』において「瑩山今生の仏法修行は、この檀越の信心に依て成就す」と述べています。仏法を信じ、自分を信じてくれる協力者がいたからこそ、一人前の禅僧になれたということですが、これは仏教に限らずあらゆる分野の、そして誰にでも言い得ることかと思われまふ。一人の人間が成長するためには多くの協力者が必要です。それは、一人の人間が生き続けるために多くの生命を食さなければならないようなものです。時間なり金銭なり愛情なり、どんな形であれ自分に何かを賭けてくれる協力者の存在が不可欠でありまふ。

そして「たとひ難値難遇の事ありとも、必ず和合和睦の思ひを生ずべし」、どんな難局にぶつかろうとも、あるいは意見が食い違おうとも、必ずやそういう協力者たちと一緒に上手く乗り越えるという意志を抱きなさいと言われてまふ。近年、いわゆる経験した事のない災害に見舞われることも多く、それだけに社会全般的な不安感も否めないと思われまふが、今こそ一人ひとりが瑩山禪師の教えを確認すべき時なのかも知れまふ。



「じょうどう・え」と読みまふ。成道とは、道を完成させた、という意味、つまり悟りを得た、ということです。お釈迦様が、悟った記念日とされてまふ。漠然と、「悟り」といひまふが、実は、何をどのように悟ったのか、はつきりしてまふ。お釈迦様は、書き物を残してまふので、本人の考えが、伝わってまふからまふ。一説には、縁起（えんぎ、一種の因果関係）だといわれまふ。しかし、この縁起の解釈が、学者間でも、論議的なのまふ。これだけ仏教が盛んなのに、不思議な話ですが、悟りの内容は未だに謎ということまふ。伝説では、苦行を止めて、村娘スジャータ（日本風にいふと良子）の捧げるミルク粥を食し、瞑想に入り、そして悟った、とされてまふ。毎年、12月8日を成道会としてまふ。けれど、肝心のお釈迦様の心は、我々には、見えまふ。それを様々に想像して、遠きインドの聖者に思ひを馳せる日、と考へておけば、間違ひないでまふ。



研究こぼれ話

小さな点から世界を覗く

法学部法律学科 講師 富樫 景子



私の研究テーマは、「原因において自由な行為の法理」という。日本の刑法には、物事の良い悪いを理解して行動する能力のない人（心神喪失者）は処罰しないというルール（刑法39条）があるのだが、無罪にしてよいか疑問な事例もある。例えば、心神喪失状態になると犯罪を行うことを自覚しながら、飲酒酩酊等の手段で自らその状態に陥り、犯罪を行う場合である。こうした場合の処罰可能性を探求するのが、本法理である。

名称は随分仰々しいが、理論の射程は狭い。学生時代の講義での説明もあっさりとしていたし、この法理の適用を認めた判例は日本ではごくわずかであり、それも最近ではほぼ道路交通事犯に限られてまふ。そうした意味で、私の研究対象は刑法理論における本当にささやかな「点」のようなものである…そう思ひて研究を始めた。

ところが、いざ本格的に研究を始めてみると、この小さな「点」は、刑法理論上の様々な争「点」と結びつき、まるで蜘蛛の巣のような理論の広がりを描いてみせた。この法理は、刑法理論の世界が凝縮された一点だったのである。さらに、この法理による処罰より有効な方法があるのでは（例えば、酩酊運転事故防止のためのアルコール検知器車内装備義務化—フランスでは2012年に義務化されてまふ—）といった刑事政策的視点の重要性までも見えてきた。小さな「点」のつもりで始めたテーマが、私に研究・現実の世界の複雑な広がりとお深さを教えてくれた。今後どのような世界が見えるかは私次第である。謙虚に研鑽していこうと思ひ。

マンガ『ONE PIECE』を通してマネジメントを理解する

経営学部教授 中村 公一



最近、マネジメントの重要性はいろいろな場面で聞かまふが、人気マンガの『ONE PIECE』からもその一片を垣間見ることができまふ。ルフィを船長とする「麦わらの一味」は、一つのチームとして成立してまふ、各自の役割分担がはつきりしてまふ。海賊船の指揮をする船長、戦闘員、航海士、コック、船医…と役割がはつきりしてまふ、ひとりの能力の限界を他のメンバーで補っているのです。これは、マネジメントの世界では「分業」といわれ、一つのチームを作っていくためには、チームワークを作っていくという「協働」が必要になるのです。

また、ルフィのようにトップに立つ人間には、単に知識があるとか、強いというような面だけでは十分ではありません。戦闘力的には最強と言われる王下七武海の一、鷹の目のミホークは、マリンフォード頂上戦争の場でルフィに対して次のように評しまふ。「能力や技じゃない。その場に居る者たちを次々に自分の味方につける。この海において、あの男は最も恐るべき力を持っている！」このように、優れたリーダーには人間的な魅力も必要となるのです。『ONE PIECE』の世界から、海賊団ではありますが、チームや組織作りのためには、自らの努力だけでなく、頼れる仲間を作ること、その強さになっていくことが分かります。マネジメントを勉強すると、日頃何気なく読んでまふマンガでも新しい面を発見することができまふ。経営学部でしっかり勉強すると、こうした視点が身に付くかも知れまふ。

国際交流体験レポート

プロヴァンス大学 交換留学

文学部英米文学科4年 横川貴亮

駒澤大学に入学した当初、私は留学というものを意識したことは全くなく、「留学」は漠然とした憧れに過ぎませんでした。そのような私がプロヴァンス大学を選んだ理由は、フランス語で英米文学を学びたかったということ、そして、Aix en Provenceの雰囲気が勉強に集中できる場所だということです。

私の専攻した文学部は留学生が少なく、フランス文学について一通りの知識があるという体での講義は専門用語が多かったため、ついていくのもやっとの思いでした。前期の終わりから、積極的に仏文学を読むようになり、後期の仏文学の講義は多少有意義になったと感ずることができました。フランス語の授業では、読めて聞けるのに、伝えることに難があることがこころも悔しいことなのかと痛感しました。後期は前期を踏まえ、積極的に専攻の授業を取ることにし、予習や課題の量は格段に増えましたが、文学の内容についてはある程度理解が及ぶようになり、これこそ大学の授業である、という楽しささえ感ずるようになりました。

寮生活では、思いのほか友人が作りやすい環境であったことには驚きました。寮の友だちとは、ご飯を食べに行ったり、悩み事を相談しあったりと、多くの時間を過ごしました。人とコミュニケーションをとらないと気付かない微妙なフランス語の言い回しなど、寮にいたからこそ学べたことが多くありました。

今回の留学で最も感謝したのは人との出会いでした。周りの友だちからは価値観を、海外で働いている日本人には意識を触発されました。海外では苦い思いをすることが頻繁にあり、その度に壁や距離を感じましたが、成長というのはその作業の繰り返しの延長線上にあるものだと実感しました。留学とは、単に楽しいものではあり得ないと思います。



大変だったことをいかに上手く自らの糧とするかが、留学なのであると思います。

カリフォルニア大学アーバイン校 短期語学セミナー

法学部政治学科3年 向山厚弥

私はずっとアメリカに憧れていたのですが、この留学が決まったとき本当に嬉しかったです。アーバインは全米で最も治安の良い場所と言われ



ていて、芝生が多く空気も澄んでいてとてもきれいな場所でした。ホームステイ先は快適で、ホストファミリーはいつも私の話す英語に耳を傾けてくれました。毎晩その日の出来事を話しながら、笑って盛り上がったりして、楽しい時間を過ごすことができました。現地では、午前中は大学で授業を受け、午後は観光したり学生たちとスポーツをするなど、毎日がすごく充実していました。そこでアメリカ人だけでなく、様々な国の人たちと関わることができ、とても貴重な経験をすることができました。イタリア、フランスなどのヨーロッパや、ブラジル、サウジアラビア、フィリピン、中国、台湾、韓国など他にも世界中から、私たち日本人と同じように英語を学びに来ていました。彼らと行動する時は、お互いに母国語は使えません。英語でしか意思疎通ができないので、すごく刺激的でした。

お互いに母国語が異なっていて言葉が通じなくても、英語という言語があれば世界中の人たちとコミュニケーションをとることができます。私は、英語を話すことの素晴らしさを体感しました。どの国の人たちも友好的で優しい人たちばかりで、彼らともっと仲良くなりたい、という気持ちが英語を学ぶモチベーションに繋がりました。1カ月は本当にあっという間で、一瞬で過ぎて行きましたが、英語を聴き取る力はもちろん様々な英会話の表現を学び、アメリカのライフスタイルを知ることができました。さらに、世界中の人たちと友達になるという素晴らしい経験は、一生忘れることのできない私の宝物になるでしょう。

国際センターよりお知らせ キーンズランド大学・来日プログラム

■ボランティア学生の募集

本学協定校のオーストラリア・キーンズランド大学の学生18人が日本語・日本文化を学ぶため、平成25年11月21日(木)～12月15日(日)の間、駒澤大学にて研修を行います。研修期間中、留学生の学習・生活を支援し、彼らと交流を持ってみませんか?興味のある学生はぜひ募集説明会へご参加ください。英語力は特に必要ありません。

募集説明会

日時: 10月18日(金)
12時15分～12時50分
場所: 1号館304教場

■ホストファミリーの募集

留学生を受け入れていただけるホストファミリーを募集します。通学に便利な近距離の家庭を希望します。

ホームステイ期間

11月23日(土)
～12月7日(土)

※詳細については
国際センター事務室に
お問い合わせください。

TEL (03) 3702-9732



第7回学長学業奨励賞受賞について

下記の通り、第7回学長学業奨励賞が222人に授与されました。

この賞は、平成19年度に制定され、各学科成績上位者若干名が選出されるものです。

〈仏教学部禅学科〉

- 【2年次生】北村佳菜・蒲生悦子
【3年次生】幡野雄一・吉田谷龍太郎
【4年次生】和田徹生・榎屋駿介

〈仏教学部仏教学科〉

- 【2年次生】細矢尚寿・池田光英・廣瀬晏菜
【3年次生】松田瑞生・庭瀬大咲・東田尚紀
【4年次生】織田雄三・三島秀典・井上舞子

〈文学部国文学科〉

- 【2年次生】山地未来・大和田泉・前田陽花
【3年次生】高橋弘樹・大林加奈・志手悠夏
【4年次生】山口彩・山口朝子・渡辺裕乃

〈文学部英米文学科〉

- 【2年次生】水村仁美・大日方優太・三橋良
【3年次生】鈴木萌・藤澤成美・橋本実耶
【4年次生】小林美菜穂・柳沙佑美・
岡崎那歩子

〈文学部地理学科地域文化研究専攻〉

- 【2年次生】吉田加奈・八戸響子
【3年次生】吉田愛・高木航太郎
【4年次生】大井雅明・渋川真実

〈文学部地理学科地域環境研究専攻〉

- 【2年次生】遠山典宏・松本正太
【3年次生】加藤浩・野澤綾子
【4年次生】山田加奈子・大賀千裕

〈文学部歴史学科日本史学専攻〉

- 【2年次生】高林拓也・白土響紀
【3年次生】並木一樹・岡崎光司
【4年次生】野村舞・中井詩織

〈文学部歴史学科外国史学専攻〉

- 【2年次生】増田舞・有我明莉
【3年次生】齋藤瞳・森静香
【4年次生】橋口詩織・鈴木菜穂美

〈文学部歴史学科考古学専攻〉

- 【2年次生】長澤文彩
【3年次生】生出美奈
【4年次生】猪股裕理

〈文学部社会学科社会学専攻〉

- 【2年次生】佐々木慶博・谷口真彦
【3年次生】須田ひかり・齋藤結美香
【4年次生】佐藤俊介・山田梨絵

〈文学部社会学科社会福祉学専攻〉

- 【2年次生】鈴木圭祐・金子梓
【3年次生】榊理恵・池田智世
【4年次生】金子容子・手塚彩華

〈文学部心理学科〉

- 【2年次生】松崎優和・早瀬知里
【3年次生】久田春花・鈴木寛
【4年次生】小野寺将・村野恵理香

〈経済学部経済学科〉

- 【2年次生】安尾健・小林弘明・田嶋愛美・
黒宮夕貴・下城康司・中沢和也・
斉藤祐也
【3年次生】西村拓毅・加藤大翼・渡辺諒・
伊藤樹里・東謙一郎・高島しおり・
平野有希
【4年次生】玉村契悟・深谷絵美・三澤貴之・
渡邊菜・田中千尋・横地宥明・
西塔翔平

〈経済学部商学科〉

- 【2年次生】加藤裕矢・小川史貴・笠原彩・
武藤幹・石原里奈
【3年次生】三浦遥香・吉本今日子・陸丹楓・
河村圭介・石橋彩
【4年次生】大澤浩紀・中島雅人・大竹咲紀・
千根裕二・宮坂佳代子

〈経済学部現代応用経済学科〉

- 【2年次生】久保田広平・木村優花・
飯塚美咲
【3年次生】安西奈々・黒木涼子・露崎絢子
【4年次生】星野裕介・土居純季・
菅谷真奈美

〈法学部法律学科フレックスA〉

- 【2年次生】吉田朱里・畑中眞結・森田優輝・
山田康平・坂本守之・加藤香奈
【3年次生】濱野里美・粕谷英孝・古谷康平・
陳曦・四栗和人・神崎直人
【4年次生】池田悠二・阿部正暉・横関友也・
高橋未果・増永詩織・森亮介

〈法学部法律学科フレックスB〉

- 【2年次生】鈴木真紀子・鈴木幸・佐々木航・
濱田由樹

- 【3年次生】浅野亮・吉田百・林裕二・
高橋勇介

- 【4年次生】鈴木政光・谷口伸・道光宇・
島田里奈

〈法学部政治学科〉

- 【2年次生】佐藤梓・西尾美咲・増山玲奈・
小野寺優志
【3年次生】海老名美香・川瀬延奈・
吉田英莉・齋木光司
【4年次生】吉田絵里香・窪田武穂・
森川千帆里・原澤唯

〈経営学部経営学科〉

- 【2年次生】原田大樹・加藤崇史・小木津舞・
大石周平・渡部一雄・桜井和香・
鈴木詩央里
【3年次生】山本恵美・黒田沙織・向山亮・
鈴木栄人・佐藤瑞姫・野村玲奈・
笠野志緒里
【4年次生】原ゆかり・西澤駿・桂井謙・
上島寿明・福永沙樹・清水智博・
塚原直人

〈経営学部市場戦略学科〉

- 【2年次生】熊谷美沙・持田一樹・渡辺頼希・
孫瑩
【3年次生】周辰・小林恵美・大久保拓哉・
川上江里子
【4年次生】加藤拓弥・田中沙樹・田中沙季・
李振凡

〈医療健康科学部診療放射線技術科学科〉

- 【2年次生】大鷹豊・舟塚千陽
【3年次生】岩田薫子・京谷亜紗美
【4年次生】守屋駿佑・小原佑介

〈グローバル・メディア・スタディーズ学部
グローバル・メディア学科〉

- 【2年次生】禰原みさを・佐山昂生・
大竹智也・高橋茉由・神山杏摘・
鎌田洋輔
【3年次生】内田栞・小杉菜以・岩田陽也・
和田みさり・西村里穂
【4年次生】石井裕太・大矢有里子・
大澤麻未・木之内綾香・奥貫真知・
近江谷志織・斉藤匠平

※学長学業奨励賞

平成19年度より従来の学長賞・学長奨励賞に加え、新たに在校生の学業成績優秀を対象として、学業意欲を喚起することを目的に学長学業奨励賞が制定された。各学科・専攻ごと、2・3年次生は過去1年間の成績により上位者若干名、4年次生は過去3年間の成績上位者若干名に授与されるもので、授与は新年度になる。

ただし、2・3年次生は対象年度の卒業必要科目の修得単位数が40単位以上（医療健康科学部は下表参照）、4年次生は3年間の卒業必要科目数合計単位数が110単位以上であること。更に新年度の学籍を取得していることが推薦基準となる。

平成25年度の学籍	推薦対象となる成績	修得単位数	授与年度
2年次生	平成24年度成績	40単位以上(医療は35単位以上)	平成25年度
3年次生		40単位以上(医療は31単位以上)	
4年次生	平成22・23・24年度成績	110単位以上	

卓球部

「一球入魂」—その言葉通りまさに互いの魂を一球ごとにぶつけ合う。今回のサークル訪問は、スティックに日々練磨する卓球部について紹介します。卓球部は昭和4（1929）年に設立された歴史ある部です。活動は週6日で、大学の定期テストの休み以外にはオフはないそうです。練習は自分で考える主体性の強いものとなっています。例えばある選手の場合は、まずは



フットワークを重視したラリー、そしてサーブ・レシーブからの実技練習、最後は部員同士で練習試合といった試合に近い流れで練習に励んでいます。

部活内の上下関係や監督との関係も、尊敬と親睦が上手く調和していて、部内の雰囲気はかなり良い印象を受けました。試合にはOBの方たちがアドバイスを兼ねて観戦に来られるようです。最近の活動としては静岡県への合宿と秋のリーグ戦を行いました。まず合宿ですが、全部員が揃って練習できる唯一の機会とあって、意識を高く持って体力作りや練習ができたようです。また、練習場として体育館を貸してくれた学校に感謝を込めて、卓球部の生徒と練習会を行いました。

秋のリーグ戦。健闘するも1勝6敗

で8チーム中7位。悲願の1部リーグ優勝のためにも何としても2部リーグとの入れ替え戦で勝利して、1部リーグに残留することが必至です。是非この伝統と誇りある卓球部を応援してゆきましょう。

(学生記者 法学部法律学科フレックスA 3年 五十嵐丈範)



MySeminar 私のゼミ vol.131

文学部 国文学科 3年 大屋 沙織

文学部 近衛 典子 ゼミ

近衛ゼミは、18人の学生が所属する近世文学を研究するゼミです。江戸時代のくずし字で書かれた文献から、当時の制度や慣例、生活様式や地理的事項といった背景を読み取り、近世文化への教養を深めています。くずし字は学生自身が字典を片手に担当部分を一字ずつ解説していきます。注釈や現代語訳、自分で設定した疑問点の調査結果などを加えて順番に発表し、次々とバトンタッチしながら読み進めています。くずし字で書かれているため、一見堅苦しく難しい内容に思えますが、実際は現代の人でも楽しめるものになっています。演習では梅暮里谷峨の読本『うめぼりこくがよみほん斯波遠説七長臣しばえんせつしちにんかろう』を読み進めています。多彩な登場人物によって手に汗握るストーリーが展開されており、奇想天外な内容でありながら優れた表現方法や美しい挿絵からその情景を簡単に思い浮かべることができます。舞台を目の前で見ているかのような壮さが感じられ、次の展開を早く知りたいと思わせる魅力のある作品です。一方で、仏教の因果思想や儒教の道徳思想などを反映した勸善懲惡的な要素も強く、物語を読み進めていく上でこうした教訓の出典元を明らかにしていくことも研究のテーマとなっています。

また、普段の授業においても近衛先生より江戸時代の文化的背景に関するお話を楽しく学ぶことができます。さらに学外研修では資料からだけでは窺い知ることのできない当時の生活の様子を学ぶために古民家を訪れ、現代とは異なる生活様式を実際に自分

たちの目で確認することができました。近世文学に関する幅広い教養を深めることができ、かつ近世文学の魅力も楽しく知ることのできる和やかな雰囲気 of ゼミとなっています。



オータムフェスティバル

11月2日(土)、3日(日・祝)
オータムフェスティバル
(大学祭)開催!

今年も駒沢キャンパスにおいてオータムフェスティバル(大学祭)が開催されます。ゼミ、サークル、学生有志による様々な企画が行われます。

- ・お笑いライブ
- ・ミス駒澤コンテスト
- ・マジックショー
- ・坐禅会
- ・駅伝応援プロジェクト
- ・駒澤フレンドパーク(縁日)など



詳細は、
オータムフェスティバル実行委員会
ホームページ
<http://komazawaautumnfes.web.fc2.com/>
Facebook
<https://www.facebook.com/autumnstaff>
Twitter
https://twitter.com/koma_autumnfes
でチェック!



落語クラブ

落語クラブは、今年で創部47年を迎えた歴史ある部です。
現在、4年生が4人、3年生が4人、2年生が5人、1年生が7人、計20人で活動しています。活動時間は火曜日と金曜日の4限後。活動場所は6号館(体育館下)の9教場です。

夏、冬共に合宿があり、それなりに大学生らしいこともしています。
サークルほどゆるくなく、他の部活動ほど厳しくないという絶妙な立ち位置なので、過ごしやすい部だと思います。

寄席

落語クラブは年に5回ほど、定期的に寄席を行っています。気軽にお越しください。
さらには関東落研連合(関東にある大学落研の集合体)に所属しており、定期的に関東落連寄席にも参加させていただいています(現関東落連総長は駒大生)。
大会等にも積極的に参加しています。

落研部員あるある

- 1.人見知りである。
- 2.友達が少ない。
- 3.人前に立つのは嫌いだ。
- 4.寝てた。行けたら行く。等の体のいい言葉を巧みに使う。
- 5.ものすごく集団心理に左右される。
- 6.そこまで落語に詳しいわけではない。
- 7.そこまで落語が好きなのではない。

以上の事に

一つでも当てはまる人は落研部員の素質があります。
お笑いをやること自体はあまり難しいことではありません。
部員全員、初めは何もできませんでしたが、今では上手に演目をやり切ります。
落語やお笑いが好きな人、興味がある人は、是非遊びに来てください。
落語クラブは随時、新入部員を募集しています。



書道部

佐田岬研修を終えて

私たち書道部は、8月の第一週を利用して愛媛県の佐田岬において研修を行いました。この研修は、半世紀前に、当時の部員が地元の方にお世話になった恩返しとして始まり、今年で50回目となります。今年も習字教室や、様々なレクリエーションを通じて現地の小学生とふれあい、私たち自身がたくさんの思い出を作ることができました。また、今年度はその小学校が閉校してしまうということで、合同制作にも小学校の児童とともに取り組みました。

この佐田岬研修は多くの方々によって支えられ、受け継がれ、今まで続けてきました。これから先も書道部の伝統行事として、継続されることを願っています。

(文学部歴史学科日本史学専攻4年 古賀聖枝)



陸上競技部

ユニバーシアード大会で個人3位・団体2位

私は、7月にロシア・カザンで行われたユニバーシアード大会にハーフマラソン日本代表として出場しました。

私にとって

初めての海外レースで食生活や時差調節に戸惑うこともあり、普段と違う環境でも自分の力を出し切る難しさを痛感しました。結果は個人3位、団体2位と目標にしていた優勝には届きませんでしたが、ユニバーシアード大会に出場できたことは世界を目指して行く上で貴重な経験となりました。

これから駅伝シーズンに入り、チームは箱根駅伝の優勝を目標に練習しています。応援して下さる方々に恩返しとなるような走り、結果を出していきたいと思っています。今後ともご声援よろしくお願いたします。

(経済学部経済学科3年 中村匠吾)



サークルの活動予定

声援歓迎 みなさんの応援をお願いします

体育会

- **合気道部・女子合気道部**
大会名：第53回全国学生合気道演武大会
日時：11月30日(土)
場所：日本武道館
- **アメリカンフットボール部**
大会名：関東学生アメリカンフットボール
秋季リーグ戦(2部)
日時：10月13日(日)～12月8日(日) ※日曜日開催
場所：アミノバイタルフィールド他
- **居合道部**
大会名：第18回関東甲信越居合道大会
日時：11月23日(土)
場所：東京武道館大武道場
- **空手道部**
①大会名：第56回全日本大学空手道選手権大会
日時：11月17日(日)
場所：東大阪アリーナ
②大会名：第41回全日本空手道選手権大会
日時：12月7日(土) 団体戦 12月8日(日) 個人戦
場所：団体戦：東京武道館 個人戦：日本武道館
- **剣道部**
①大会名：第61回全日本学生剣道優勝大会
日時：11月4日(月)
場所：日本武道館
②大会名：第32回全日本女子学生剣道優勝大会
日時：11月10日(日)
場所：春日井市総合体育館
- **硬式テニス部**
大会名：第24回関東大学対抗テニス選手権大会
日時：11月10日(日)～12月15日(日)
場所：各大学テニスコート

相撲部

大会名：全国学生相撲選手権大会
日時：11月2日(土)・3日(日)
場所：堺市大浜公園

卓球部

- ①大会名：第80回全日本大学総合卓球選手権
(個人の部)
日時：11月13日(水)～16日(土)
場所：ベイコム総合体育館
- ②大会名：全日本学生選抜卓球選手権
日時：11月23日(土)・24日(日)
場所：日野市市民の森ふれあいホール

ボクシング部

大会名：第83回
全日本アマチュアボクシング選手権大会
日時：11月13日(水)～17日(日)
場所：雲仙市吾妻体育館

陸上競技部

- ①大会名：第45回全日本大学駅伝対校選手権大会
日時：11月3日(日)
場所：熱田神宮→伊勢神宮
※当日、オータムフェスティバルで駅伝応援プロジェクトを開催
- ②大会名：第90回東京箱根間往復大学駅伝競走
日時：2014年1月2日(木)・3日(金)
場所：大手町→箱根芦ノ湖→大手町

チアリーディング部 BLUE JAYS

大会名：第25回全日本学生選手権大会
日時：12月14日(土)・15日(日)
場所：国立代々木競技場第一体育館

体育会本部

行事名：陸上競技部箱根駅伝壮行会
日時：12月3日(火) 12時10分
場所：駒澤大学駒沢キャンパスピロティエ

文化部

- **ギターマンドリン倶楽部**
行事名：第43回定期演奏会
日時：11月29日(金)
場所：武蔵野市民文化会館小ホール
- **書道部**
行事名：第47回書作展
日時：11月15日(金)～17日(日)
場所：目黒区美術館区民ギャラリー
- **管弦楽団**
行事名：第36回定期演奏会
日時：11月30日(土)
場所：昭和女子大学人見記念講堂
- **応援指導部ブルーベガサス**
行事名：天馬祭
日時：12月7日(土)
場所：駒澤大学記念講堂

大学からのお知らせは、駒澤大学ケータイサイトでも見られます。



『「他喜力」をモットーに、練習に励んでいます。』

バンクーバーパラリンピック アイススレッジホッケー銀メダリスト **馬島 誠さん**



1971年長野県生まれ。1997年法学部卒業。在学時の大事故により車いす生活となるも、アイススレッジホッケー(※)と出会い日本代表として活躍。2006年トリノ、2010年バンクーバーパラリンピックに連続出場し、バンクーバーでは銀メダルを獲得した。現在はセイコーエプソン株式会社に勤務。アスリートとして活躍する傍ら講演会なども行う。

アイススレッジホッケー日本代表として活躍する馬島さんに、大学の思い出や競技にかける思いを伺いました。

----駒大進学のかっかけは？

建築に関わる仕事がしたいと思い、長野から東京に進学しました。法学部を選んだのは資格取得に有利だと感じたからです。体を動かすことが好きで、学生時代は剣道や神道夢想流杖道といった武道の稽古に励んでいました。

----アルバイト中に大事故に遭われたそうですね。

3年生のときアルバイトをしていた会社での測量作業中、66,000ボルトの高電圧電線に接触し、感電事故に遭いました。何とか一命は取り留めたものの2～3週間意識が戻らず、3回の植皮手術とリハビリで丸1年入院しました。事故に遭った当初は、「なぜ自分が」という気持ちで毎日泣いていました。しかし家族や友人たちに支えられ、トイレに行くなど自らの力でできることが増えるうちに、少しずつ前向きな気持ちになっていきました。

両足に障がいが残ったまま大学に復学したのですが、大学の先生や職員の方が、私が履修する科目の教場を足が不自由でも移動できるよう特別に配慮してくださいました。「これは大学を裏切れない！」と思い、3・4年の成績はオール「優」。1・2年は「可」・「不可」ばかりだったんですよ(笑)。

----アイススレッジホッケーとの出会いを教えてください。

卒業後就職して太ってしまい、健康のために勧められたのがきっかけです。最初はリハビリのスポーツだろうと思って見学に行ったのですが、予想以上に激しい競技でした。勝つために真剣勝負をしていることが伝わってきて、素直に「やりたい！」と思いましたね。パラリンピックの正式競技でしたから、私も他の選手と同様に日本代表を目指しました。筋トレも取り入れ、許される時間は全て氷上の練習に注ぎ、誰よりも長く練習しようと必死でした。

----パラリンピックに2大会連続出場されましたね。

左肩を亜脱臼する怪我に悩まされながらも、日本代表として実力を認められました。2006年のトリノでは5位。監督の「RESPECT&CONNECT」というスローガンを胸に練習を重ね、4年後に繋げました。バンクーバー大会の準決勝戦で開催国のカナダと戦うことになったのですが、金メダルの最有力候補でした。緊張する私たちに監督が「前回の成績5位を既に上回っているんだぞ！」と鼓舞してくれ、この戦いに勝利できました。この勝利は日本



で大きく報道され、決勝戦ではパラリンピック史上初めてNHKが試合を生中継してくれました。これは本当に嬉しかったです。結果は銀メダル。監督にはメダルが授与されないので、選手が貰った15個すべてを監督の首にかけ、喜びを分かち合いました。

今は2014年ソチ大会出場をかけて練習に打ち込んでいます。



----現役学生に向けてメッセージをください。

私は「他喜力」を常に意識しています。メンタルトレーナー西田文郎さんの言葉で、「目標に到達するためには自らの努力はもちろん必要だが、それ以上に周囲や仲間を笑顔にすることを第一に考えなさい」という意味です。周囲のために何かをすると、最終的にすべて自分に返ってきます。仲間が喜ぶ良いパスを出せば、良いパスが返ってくる。仲間のミスにも寛大になれる。必要なときに、自分が必要とする人物と出会うこともできています。これを実践するのはそれほど難しくありません。「感謝の気持ち」を大事にするということです。私は壁にぶつかったとき、「ありがとう」と100回以上呟きます。そうすると自然と感謝したい人の顔が浮かび、「この人たちのお陰でここまで来られたのだ」と思えるようになります。この気持ちが仲間への『信頼』になり、『自信』に繋がっていきます。皆さんも、人との出会い、そして仲間を喜ばせる気持ちを大切にしてください。

(※) アイススレッジホッケー…下肢に障がいを持つ人のために、アイスホッケーのルールを一部変更して行うスポーツ。スレッジと呼ばれる専用のソリに乗り、左右の手にスティックを一本ずつ持ってプレーする。選手同士の体当たりが認められており「氷上の格闘技」とも呼ばれる。